

2008 年度 小委員会活動成果報告

(2009 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	空間研究小委員会	主 査 名：日色真帆 就任年月：2008 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築計画本委員会(計画基礎運営委員会)	委員長名：布野修司 主 査 名：大野隆造
設 置 期 間	2008 年 4 月 ~ 2010 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築・都市空間についての研究全般における様々な調査方法や分析方法を取り上げ、その有効性や可能性を検討する。 ・ 各種の空間やこれに関連する事象を取り上げ、その意味について議論する。 ・ 建築分野の研究者だけでなく、幅広い分野から講師を招き、研究会・シンポジウムを実施して、議論を公開する。 ・ 蓄積された議論や資料をもとに、その成果を出版物として刊行し、会員ならびに社会に向けて広く公表する。 	
委員構成 (委員名(所属))	委員公募の有無：有(3名) 主査：日色真帆(愛知淑徳大学) 幹事：鈴木弘樹(千葉大学) 橋本雅好(椛山女学園大学) 委員：狩野朋子(佐々波地域研究事務所) 木川剛志(福井工業大学) 北川啓介(名古屋工業大学) 郷田桃代(東京電機大学) 佐藤将之(早稲田大学) 佐野友紀(早稲田大学) 瀧澤重志(京都大学) 太幡英亮(東北文化学園大) 積田洋(東京電機大学) 丹羽由佳理(東京大学) 橋本都子(千葉工業大学) 樋村恭一(東京大学)	
設置 WG (WG 名：目的)	シンポジウム WG 空間研究小委員会主催のシンポジウム企画のため 出版 WG 空間研究をテーマとした出版物刊行のため	
2008 年度予算	297,000 円	ホームページ公開の有無： 無 委員会 HP アドレス： 無

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	なし
講習会	なし
催し物 (シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)	1. 第 66 回空間研究小委員会研究会(2008 年 6 月 9 日)「生理計測による空間評価研究の可能性」 参加者数 61 名 建築人間工学小委員会、環境工学委員会・環境生理心理運営委員会・環境心理小委員会との共催 (資料名)シンポジウム名に同じ 2. 第 67 回研究小委員会研究会(2008 年 10 月 24 日)「愛知淑徳中学校・高等学校の「関係性のデザイン」をめぐって」 参加者数 44 名 設計方法小委員会との共催 (資料名)シンポジウム名に同じ 3. 第 68 回空間研究小委員会研究会(2008 年 12 月 20 日)「名作といわれたオープンプラン小学校の現在(いま) 学びの場を開くことの意味」 参加者数 52 名 教育施設小委員会との共催 (資料名)シンポジウム名に同じ 4. 7 月、10 月、3 月(予定)に、3 回のミニ研究会を実施し、空間研究分野の若手研究者による研究発表の場を設けて意見交換を行った。
大会研究集会	なし

対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1．建築・都市空間に関する研究における方法論の可能性を探ること、また、各種の空間の意味を議論することを目的として、3回のシンポジウムを開催し討議した。</p> <p>2．刊行予定であった『空間デザイン辞典』は、類似タイトルの書籍が他の委員会が出版されたため、書名等をさらに検討することとした。</p> <p>3．新版『建築・都市計画のための調査・分析方法』は本年度中に執筆が終了する予定である。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1．設置目的は十分に達成されていると考えるが、今後の建築計画研究の新しい方向を切り開くような新しい調査・分析方法の開拓が今後の課題である。</p> <p>2．上記の検討として、現在、『建築・都市計画のための調査・分析方法』の改訂版を執筆中である。</p>

*小委員会活動成果報告書は本書式を基本とする。ただし、それぞれの本委員会において活動実績を報告する共通項目があれば、最下段に項目を追加して記述してもよい。